

# 安芸高田市学校規模適正化委員会（第1回）議事録

平成21年6月2日（火）14:00～16:40

安芸高田市教育委員会4階小ホール

## 事務局

- 第1回安芸高田市学校規模適正化委員会を開催したい。最初に教育長から挨拶を申し上げる。

## 教育長

- 今回、委員会を設置するにあたり、委員の就任を承諾いただきありがとうございます。本市教育委員会では、「安芸高田かがやきプラン」を策定し、教育行政の推進を図っているところである。そのなかで、学校教育においては、目指す子ども像を「夢と志をもった、活力あるこども」と位置づけ、「地域に開かれた特色ある学校づくり」に努め、目標実現のために、学校・家庭・地域の相互連携、学校間連携など、関係者が一体となった「協育」の実現を重視してきた。
- 学力・学習面の基礎・基本的な内容は定着してきたが、残念ながら、不登校児童生徒の割合は依然として高率で、課題意識を持ち、取り組んでいるところである。
- 少子・高齢化が進むなか、将来の本市の児童生徒数をみると、平成30年では、小学校13校のうち8校が複式学級のある学校になると見込まれる。このような状況の中、将来展望にたった教育行政を進めていくため、本市教育委員会では社会状況を踏まえ、今日的な教育課題を克服し、教育効果を高める目的で、市内の学校規模の適正化と配置について検討することとした。委員のみなさまには、安芸高田市の長期展望のもと、全市的な視野にたちご検討いただき、答申をいただくようお願いしたい。

## 事務局

【委嘱状の交付】

【委員の紹介】

【事務局の紹介】

- 会長・副会長の選出を行いたい。設置要綱第4条の規定により、まず委員長の選任を行いたい。どのような方法によって選任するか。

## 委員

- 委員長によって、この委員会の結論が大きく左右されると思う。どういう方が委員長をすべきという点については、今日は第1回の会議なので、それぞれの委員の意見を聞き、個人の考え方がわかってから、互選するとよいのではないか。

## 事務局

- その他の意見はないか。

## 委員

- 委員の意見はもっともだと思うが、委員の人数も多く、1、2回ですべての意見が延べられるわけでもないと思う。事務局で副案があれば発表していただいて、その方にやっていただき、委員長が副委員長を指名するという形をとらないと、議論がなかなか進まないと思うが、いかがだろうか。

## 事務局

- 2つの意見について、挙手で採決を取らせていただきたい。A委員の意見が賛成の方の挙手をお願いしたい（3名の挙手）。続いて、B委員の意見に賛成の方の挙手をお願いしたい（挙手多数）。
- 挙手多数であり、事務局案を発表させていただきたい。学識経験者である林先生に委員長をお願いしたいが、事務局の提案に賛成の方は挙手をお願いしたい（挙手多数）。
- ありがとうございます。挙手多数であり、林先生に委員長をお願いすることとしたい。
- 続いて副委員長の選任にうつりたい。委員長から指名をお願いしたい。

## 委員長

- 副委員長については、是貞委員をお願いしたい。

## 事務局

- 委員長、副委員長からそれぞれ挨拶をいただきたい。

## 委員長

- 今回の委員を引き受けるにあたり、安芸高田市が教育にかける想いを聞かせていただいた。子どもたちが地域を誇りに思い、旧町が「安芸高田」というひとつのまとまりのある地域として、そこから、広島県、日本、世界に羽ばたいていく子どもたちを育てていくという思いを聞かせていただいた。その中であって、どういう風に子どもたちを育てていくか、そのための学校教育をどう考えるかということ議論していきたい。この委員会では、規模の適正化をどう考えるかについての答申を出せればと思う。
- 子どもたちの育つ場は、家庭・学校・地域社会それぞれであるが、役割は厳密に区分されているものではないと考えている。学校でできることはなにか。それにふさわしい器をどう考えるか。「結論ありき」ではなく、そのことについていろいろな議論ができればよいと思う。
- もちろん、安芸高田市の現状を踏まえ、いろいろな条件を聞かせていただけると思う。あるべき姿はいろいろな理想があると思うが、現状を抜きにして、あるべき姿を実現できない。その中で、理想と現状を繋ぐものとして、「ありうる姿」を求めて一步一步、あるべき姿に近づけていくという考え方をもち、私は研究を進めてきた。安芸高田市とも関係は深く、旧美土里町の教育プラン策定にかかわらせていただいた。プラン策定の中で至った結論は、家庭・学校・地域あげて子どもを育てるという至極もっとも当たり前のことであった。小田小学校とも係わりが深く、現在、共同研究を進めている。よろしく申し上げます。

## 副委員長

- ただいま、委員長から、現状や方向性についての話を聞かせていただいた。この会議がスムーズに進むように委員長を補佐していきたい。よろしく申し上げます。

## 教育長

【安芸高田市学校規模適正化委員会に関する諮問】

## 事務局

【資料説明】

説明資料① 安芸高田市の目指す「協育」

小中学校施設の現状

児童・生徒数の推移及び将来予測

安芸高田市の財政状況

適正な規模が求められる理由

補足資料① 平成 21 年度小中学校施設要覧(抜粋)

学校施設別耐震状況

学校規模によるメリット・デメリット

## 委員長

- ありがとうございます。会の始まりから 80 分がたっており、休憩を入れさせていただきたい。

【休憩】

## 委員長

- 会議を再開したい。本日は 4 時半をめぐりにこれから 1 時間程度審議をさせていただきたい。
- 学校の現況等についてということで資料を説明していただいた。この説明について質問等があればいただきたい。

## 委員

- 資料についての意見ではないが発言させていただきたい。委員の選任については、時間的な余裕をもって行っていただきたい。私は地域振興会として参加しているが、第 1 回の日程が既に決まっており、地域振興会の中で議論をする時間もなかった。次回からは余裕を持って対応していただきたい。
- また、地域の川根小学校については、児童 23 名の小規模校であり、私自身は、危機感を持ってあえて委員にならせていただいた。委員になった以上は責任をもって参加させていただきたいと思うが、次回からは早く連絡をいただきたい。

## 委員

- 説明をいろいろ聞き、小規模校にも、小規模校なりのメリット、デメリットがあり、大規模校も同様である。どちらがいいといえる問題ではないという印象を受けた。安芸高田市の目指す学校像においても直接、規模のことがうたわれているわけではなく、どちらにも決めがたいと感じた。ただ、そうなると、結局、耐震構造や予算規模で検討するという議論にしかならないのではないかという印象を受けた。もともとは、「学校規模が適正か」という議論でなければならないと思う。予算が逼迫しているから、決めるというのでは、筋が違うと思う。学校規模の話と、市の予算や耐震化の議論はどういう関係になるのだろうか。できれば、政策的な判断とは、別の話とすべきではないだろうか。

## 教育長

- 安芸高田市の学校では、それぞれの規模の中で努力をさせていただいているが、「本当に適正な規模といえ、1学級がどの程度の規模であれば望ましいと考えているか」、みなさんの意見をいただきたいということと、「1学年1クラスの学校がいいのか、1学年8クラスが望ましいのか、どの程度の規模の学校がいいのか」ということについて、委員会としての意見を聞かせていただきたい。
- その際、教育を「教員」対「子供」と考えるのか、「子ども」対「子ども」の切磋琢磨も視野に入れるのか、といった点についても一緒になって考えていただきたい。
- また、学校規模が小さいときはどうすればよいかというと、学校統合が考えられるが、その場合は通学距離の問題も配慮しなければならない。例えば、黒瀬の中学校では1校で800名程度、西条中学校では700名程度である。そのようなことを考えると、規模だけで言えば、安芸高田市では「中学校は1校でよいではないか」と思われるかもしれないが、通学距離の問題もある。そういった点を考えながら、適正配置の意見をいただきたい。財政的な面も考えなければいけないが、まず子どもにとって本当に望ましい姿を考えていただきたいというのが、私の願いである。

## 委員

- 今の教育長の話をつかかって「本当に小規模がよいのか」とか「せめて1学年に2学級」という結論がありきというようなご意見はどうかと思う。先ほど、委員が言われたように、本当に正しい答えはないと思う。その人数に対して、地域や保護者、学校がどう取り組んでいくか、どう育てていくかが一番問題と思うが、今の意見は、ある程度の規模にしなければいけないという考え方のように聞こえた。
- また、林先生にうかがってみたいが、小規模のデメリットとして切磋琢磨が少ないといわれるが、何をもち切磋琢磨というのか、テストの点数を競うのか、いろいろあると思う。さらに、小規模校で育った子どもは、社会に出て打たれ弱いとよく言われるが、本当にそのようなデータはあるのだろうか。

## 委員長

- 実際にそのようなデータを見つけることは難しい。
- 教育そのものは、時間がかかる。すぐに結果が出るものではなく、教育の延滞効果といわれる。実際に「何人のクラスが適正か」を科学的に見つけることは難しい。
- 昔の研究であれば、25人から30人のクラスの規模が教師の目が届き、教えやすいといわれている。ただ、最近では、1学級に平均で6%くらい発達障害のあるお子さんが見られる。40人であると2、3人である。だが、小規模であっても11人のうち8人が障害ありと判断される例もあり、どのくらいの人数が指導しやすいかという根拠はなかなか言いにくい。これまでの経験からいうと、ある程度的人数がいなければ、教育の効果が上がりにくいということはいえる。
- 安芸高田市では、切磋琢磨が少ないことを先生方が危惧して、それにあった努力をされているのである。そのような現状から言えば、小さい学校でいいではないかという結論に落ちてしまうかもしれないが、先生方の努力があって、はじめてよいと思える環境ができている。
- 本当に言えば、人数がいたほうが楽しい。人数が少なければ、スポーツ活動では、

ボールゲームができないということも出てくる。昔はサッカーができていたが、今はバスケットで代替している。そういったことについても会議の中で意見いただければと思う。

- 学校教育を進めていく上で、先生は条件にあわせていろいろ努力をしているし、それをやらなければ子どもたちの幸せはないと思って進めている。極端な場合をいうと、将来、少子化が進み、教師1人、児童1人という状況もありうるかもしれない。そのときに本当に子どもは幸せだろうか。教師を教師とみなす場面、教師を友達とみなす場面など設定しながらやっていくということはあると思う。そういう努力をすることがよいのかということも論議することが大事だろう。
- 規模のメリット・デメリットが出てくるが、現実の学校はメリットを最大限に生かし、デメリットに陥らないように努力をされている。デメリットを回避するために努力をしている。その現状で本当によいのか、他の選択肢はないのか、よい方法はないのかということ、それぞれの地域の特色を生かしながら考えることが重要である。
- 例えば、美土里地域などは、1校なのでよいというかもしれないが、それがさらに小さくなるとどうなるかという点などを考える必要があるかもしれない。実際に複式の学校がある高宮地区は危機感が高いと思う。保護者の考えはわからないが、地域の方は、学校がなくなるのは問題であるとほとんどの人が思っている。この会議では、そういう背景を持ちながらも、どういった子どもの教育が必要かを議論するのだろう。その他のことは、先ほど委員も言われたが、提案を受けて行政がどう動くかである。行政には、実際もっと厳しい現実があるだろうが、それは行政にゆだねられて仕方がないところである。この会議では理想を求めて、安芸高田の子供たちの教育を、旧町のよさを生かしながら、こういうあり方がよいといういろいろな意見が出てくればと思う。私は意見をひとつにまとめようとは思わない。両論併記でもよいと思う。この会議が、皆さん方とひとつになって考えていく場となるよう私は支援したい。
- 委員のみなさんは統合について、疑心暗鬼であると思うが、安芸高田の子どもを、学校教育、家庭、地域が一緒になって育てていくという視点で、少子化の中で求められている学校教育はどういったものかを考えたい。また、大規模改築も含めて諮問を受けているので、少し財政的なものも考えながら審議していかなければならないと思う。ぶつかる意見もあると思うが、意見をまとめるのではなく、意見の違いをはっきりさせていくことで、安芸高田の将来を考えていきたい。

#### 委員

- 私は、吉田地域となっているが、郷野小学校のPTAである。小規模校のメリット・デメリットを読ませていただいて、メリットについては肯定できるが、デメリットについてはまったくそのように感じない。今の人数で満足している。以前、大江保育所で、ある日突然保育所がなくなるという話があり、保護者が集められ、役場の方が来て説明をうけた。その時は保育園がなくなるという一方的な報告で話し合いではなかった。今回は、話し合いをすることによって、統合がなくなればよいと思うが、議論が決まってしまうと、統合がすぐに進んでしまうと思う。だから、

希望を持ちつつ、悲しい面も感じつつ参加している状況である。私自身は現状の1学年1クラスで満足している。

#### 委員

- 先ほど委員長の話をうかがい、委員長にふさわしい方だと思う。最初から結論をだすのではなく、いろいろな意見を出し合い、結論をひとつにしなくてもいいというのはその通りだと思う。
- この委員会の案内を頂いた時、会の名称がひっかかった。「適正化」というのは、現状は適正でないものを適正にしようという意図が表れており、違和感があった。「適正化」という言葉を取り、例えば、会の名称を「規模を考える委員会」と変更してはどうだろうか。

#### 委員

- 委員さんの意見は的を射ていると思う。
- 私の考えを述べたいが、最初に委員が言われたように、準備段階が短すぎると感じた。子どもにとって、本当に大事な委員会を立ち上げる中で、急いで委員を決めており、各地域で議論して委員を選出すれば、もっと志を持った委員が集まったのではないかと思う。ただ、委員となった以上は真剣に取り組みたいと思う。
- 先ほど委員長から、理想を議論し、財政的なものとの兼ね合いもあり、最終的には、理想とはちょっと違う結果になりうるかもしれないといった主旨の話があったが、そこを納得したのでは委員会の意味がないと思う。予算がないなら、予算がつくような動きを委員会ですべきではないかと思う。どこまでの範囲の問題をこの委員会で扱うべきかという問題もあると思う。例えば、地域社会とかかわりの深い教育という視点でいえば、福祉の問題などもあると思うが、そこまでの範囲ではないのだろう。今回は、学校規模ということなので、保護者としての考える規模というものもあるが、一番は子どもが楽しく学べる規模ということを考えていくべきだろうと思う。

#### 委員長

- 名称のことについては、「適正化」はどんなものだろうかと考えることと受け止めて、そのままのほうがよいと思う。
- あるべき姿を議論しながら、諮問を受けている点に対し、安芸高田市にふさわしい規模をわれわれは考えなければならない。「児童生徒数が多いから、あるいは少ないから施設をどうする」ということではなく、安芸高田市の子どもたちを育てていくのに、ふさわしい規模を考える。結果としては両論併記もありうる。
- また、施設の問題についても諮問を受けている。学校施設の一部は、大規模改築の施行時期にきている。耐震化も近々にやっていかなければならない。これは安全で安心な環境を作っていくために大事なことである。耐震化は国の予算が特別についているので、急がなければならない。お金をかけるにしても、選択と集中という考え方がある。そういう問題も考えなければならない。理想としてのあるべき姿を考えつつ、現実の中で「ありうる姿」を検討し、成案を出していただけるようにしたいと思う。理想だけをあげて、教育委員会が苦境に立つのでは、皆さんの考えていただいた案が実現できない。それは辛いことである。実現するにはどうしたらよ

いか、この委員会ではそこまでの議論をさせていただきたいと考えている。

## 委員

- 「規模適正化」という表現がひっかかる。地域で生まれ育った人間は、せめて義務教育は地域の学校に通ってほしいと思っている。高宮地区でも中学校の統合の際にはいろいろな意見が出た。教育問題については、必要な条件を揃えなければならないということで統合したが、そのときにも生徒の負担、保護者の負担、統合によって地域にマイナスになってはいけないということで、いろいろな条件を答申書として出した。現実は今どういう状況であるかということを経験すると、スクールバスは運行しているが、時間や便が限られており、クラブ活動をする生徒は親の送迎がないとクラブ活動ができない。家庭の事情によりクラブ活動ができない場合も出てくる。地元であれば、学校に自転車で通え、クラブ活動もできると考えることもある。
- また、中学校の規模については、他地域の大規模な事例を出して安芸高田市にふさわしい規模を考えるべきではないだろう。地元の地域に限定した話をさせていただきたいが、若者定住で住宅を建てており、小学校 23 名のうち、12 名が若者定住のこどもである。保育園 20 名のうち、10 名が若者定住の園児である。小規模校ということを知って、地域にやってくる親や子どももいるということを知ってほしい。
- さらに、先ほどメリット・デメリットを言われたが、デメリットはまったくわからない。メリットがすごいと思う。小規模校の教育内容をどうするかという議論は、これまでなかった。この会でも財政的な問題であるという意見もあったが、教育の合理化を考えて、児童数生徒数の議論をしたのでは、本当の安芸高田市のためにならないのではないか。この委員会では、机上で話し合いをするだけなのか、それとも、小規模校の現状を見たり、地域の話を知ったりということも行うべきではないだろうか。そのような点について、しっかり考えていきたい。場合によっては、地元の意見を聞いてほしいという提案をしなければならないような立場にいると考えている。委員になった以上は、「安芸高田の教育はすごい」と思ってもらい、そこで「生活したい」と思うような教育内容を作ることも、この委員会の仕事だと思う。
- 関連してもうひとつ言わせていただければ、最近では、保育所の民営化、学校給食施設統合の話なども聞こえてくる。自分の地域の小学校では、児童 23 名であり、給食は地域の人が地域の食材で作って、提供する方法もあるのではないかと感じる。郷土芸能や地域の文化についても、近年は子どもたちがふるさとにいる期間に芸能や文化を体験させ、社会に送り出すというような地域教育の取り組みを行っている。そういう取り組みにより川根のはやし田なども引き継いでいる。このように、地域には地域の歴史があるということも考えていただきたい。
- 安芸高田市になって、事業効果を優先しているように感じる。耐震効果についても、100 年 200 年に 1 度くるかこないかの地震で右往左往するような教育内容はおかしいだろう。

## 委員長

- 安芸高田の学校教育をどういう風に進めてきたのか、進めていくのかという議論の中で、学校の規模を考えてみる必要がある。その中では、「小さい学校もあ

ってもいい」、「子どもたち同士が寄り合える学校を考えてみる」など、いろいろな意見があればよい。私が気になる点は、旧6町が無理やり合併し、地域のエゴが残っていたら、まとまるものもまとまらないということである。ただし、「地域に開かれた特色ある学校」が地元で根ざし、かつ安芸高田の一員として、すばらしい教育をそれぞれ行っていくという形もあるのではないか。

- 実際に、メリット・デメリットを出しているのに、統廃合の話につながってしまうが、子どもたちがどんな風に育っていくかを優先に考えるべきである。現状の学校においてもよいところはたくさんあるが、それは学校の取り組みがあるからである。学校の努力が正しい努力か、教員やそれぞれの方が無理をして、限界を超えて頑張っている成果ではないか、ということも危惧される。また、安芸高田に育つ子どもが、全市的に公平に育つという視点も持ちながら議論を進める必要がある。
- 耐震化については、100年に一度の大地震は明日来るかもしれない。その備えをするのが行政の立場である。耐震化は自前で行おうとすると莫大な費用がかかるが、この2年以内であれば、国の予算を使って耐震化ができる条件もある。理想を検討する中で、たちまちできることも踏まえて「ありうる姿」の方向を示し、答申をしたいと考えている。

#### 委員

- 今の話を聞いていると先に結論があるように感じる。耐震化については、現状で学校が営まれているのであれば、そこに必要な処置を講じるべきであり、統合とは別の話だと思う。財源の問題があるという点については、どこまで子どもにお金をかけるかという政治的な判断だろう。最初から予算の上限が決まっているわけではない。ただし、委員会では、財源の問題まで踏み込んで議論をすると、方向が定まらないように思う。この委員会は子どもにとって、どんな学校がいい学校なのかを素直に議論する場であったらよいと思う。

#### 事務局

- いくつかの点について、補足説明をさせていただきたい。教育長が考え方を申し上げたなかで、中学校の事例として他地域の具体的な数字を出したが、安芸高田市では、全市で1校というようなことには絶対にならないという主旨の発言であると教えていただきたい。教育長は、広範囲な市域や通学距離、地域性などを踏まえ、必然的にあるべき形が見えてくるのではということを示したかった。
- また、委員の委嘱等が急であったことについては、お詫びを申し上げたい。教育委員会が早い段階で議論をしていただきたかったのは、国が景気対策ということで、耐震化については、現在は極めてわずかの市の持ち出しによって整備ができる環境にある。この状況は今年、来年あたりまでのことであろう。特に今年は、臨時交付金という形で相当予算がつくという現実がある。すべての学校を同時に行うということではできないので、この委員会での一定の議論を踏まえ、来年の予算づけをどのようにしていくのかという議論をしていく必要があると考えている。そのような思いがあり、11月くらいには中間のとりまとめができる環境になればよいと考えている。
- 私たちは行政を運営していかなければならない立場である。先ほど、道路予算を



教育に持ってくればよいという意見もあったが、例えば、道路の問題にしても、橋の老朽化が非常に進んでいる。維持補修の費用もかかるが、必要最低限に抑えているのが実態である。そのような現実もあり、学校だけに特別に予算をつけるというわけにはいかない状況がある。高齢化社会に突入すれば、それらの施策経費も必要になる。全体とすれば非常に厳しい財政状況に陥っているのは事実である。22億という一般財源がなくなる。つまり、今年度の教育予算18億円を上回る額がなくなるわけである。そういった厳しい環境の中で、子どもたちの教育をどのように担保していくか、しっかりとしたご議論をいただきたいと考えている。また、仮に統合するという答申をいただいたとしても、地域のみなさんの合意をすぐにいただけるとは考えていない。美土里小にしても丹比西小にしても、何年も地域の中で議論を重ね、地域の合意形成をもって初めて実現したものである。一方で、平成30年の子どもたちの状況を示したが、複式学級に突入するという形が間近に迫っている。そのような状況の中で子どもたちの豊かな教育をどのように担保していくのか、しっかり議論をしていただければと思っている。今回の結論をもって、教育委員会が性急に行動するということは一切ない。ただ、財政的な面からすると、耐震化、大規模改修については目の前にきている問題である。同時に、すぐ改修にかかりたい学校教育施設もある。市内全校を視察し、5校については早急に対策が必要という感触も持っている。そういうことも念頭にご議論いただきたい。

#### 委員長

- 今回は第1回委員会であり、安芸高田市がどういう方向に向かうのか、現状はどのようなものであるのかという認識を持つための会とさせていただいた。実際ここで決まったことは、その通り動くわけではなく、「参考とします」と諮問文も結ばれている。そう考えると、「安芸高田の教育はこうありたい」ということを高らかに謳いあげておかないといけない。その中で、理想だけでなく、「こんなことであればできる」といった視点もあわせて持っておきたいと思う。
- 予定した時間が迫っているが、他に発言はないだろうか。

#### 委員

- 美土里地域の保護者会代表である。美土里小学校は1クラス25人前後で、1学年1クラスである。メリットとしては、きめ細やかな教育を受けており、その点についてはまったく問題なく、学校には満足している。ただ、保護者として率直に感じているのは、子どもにとって、2クラスか3クラスあったら楽しいだろうということである。
- 現状に不満というわけではないが、私自身、小学校が1クラス40人以上5クラス、中学校では1クラス40人以上14クラスのマンモス校で育ってきた。そのなかで一番感じたことは、コミュニケーション能力が高まるということである。毎回クラスが変わり、そのたびに新しい友達をつくる。声をかけようかと考えたり、友達になれたときの感動、一方で友人関係のトラブル等、いろいろなことがあった。しかし、小3のわが子を見ていると、そういうことはまったく会話に出てこない。自分の体験では、小学生であったからこそ体験できたコミュニケーションのとり方があった。中学校では、校内暴力の時期だったため、授業にならないこともあり、仲間には道

に外れた友人や、発達障害の友人もいたが、特別視も何もなく、さまざまな体験をしながら育ってきた。

- わが子のコミュニケーション能力がないというわけではないが、その年齢で経験できることの一部が小規模校ではできないのかもしれない。他のクラスが盛り上がっているときに、「自分のクラスも盛り上がろう」というような経験がないのだと思うと少し寂しいことがある。決して今の環境が不満なわけではないが、理想としては、2クラスか3クラスあったら、子どものためにはいいのではないかと保護者として感じている。

#### 委員

- 安芸高田市の子どもである前に、地域の子どもだと思う。学校に歩いて行って、歩いて帰れることが基本だろう。与えられた条件のなかで、精一杯幸せに生きることを大人たちは考えるべきである。全市一律でこういうものであるという考えはどうかと思う。

#### 委員

- この会議は貴重な会議であるが、定められた時間ではじめをもって、やっていただきたい。

#### 委員長

- 予定時間を3分過ぎたが、次回開催日程についておはかりしておきたい。次回は7月の上旬を予定しているが、いかがだろうか。今回は第1回ということもあり、昼の開催とさせていただいたが、仕事の都合などで夜の開催がよいという方もいるかと思う。いかがだろうか。

#### 委員

- 委員の中には、子育てをされている方もおり、意見を聞かれてはいかがか。

#### 事務局

- 今日欠席された委員から、夜の時間帯の方が参加しやすいという意見もあった。

#### 委員長

- では、夜の開催ということで調整させていただきたい。

#### 事務局

- 次回については、時間は7時～9時までの2時間の開催とさせていただきたい。日程については、事務局で調整し、早めに連絡させていただきたい。

#### 委員長

- 最後に、次回からの審議については、政治的な要素も含んだ内容となる可能性もあり、審議内容を公開することによって、混乱をきたす場合もあり、委員会を公開とするか、非公開とするかについて、みなさんのご意見をうかがいたい。

#### 委員

- 公開にするべきである。

#### 事務局

- 資料等については、基本的に公開の方針である。議論の中で、委員のみなさんが非公開とすべきと判断される場面があれば、非公開にすべきと思うが、原則公開すべきと考えている。

#### 委員長

- 公開ということは、議論そのものが出ていくということである。委員名はでないが、発言が公開されるということも了承いただきたい。委員の名前が出ることはない。

#### 委員

- 中立的な立場で判断することはなかなか難しい。耐震化など各学校に順位がつけられているデータなどをみると神経を尖らさずにはいられない。できるだけ言葉を選びながら発言していきたいと思うが、そのあたりの心情も理解いただきたい。

#### 委員長

- ありがとうございました。これで第1回安芸高田市学校規模適正化委員会を終了する。